

そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 研修医 2 年目

大城 陽

“せっかくの地域研修は、僻地にあって、ゆっくりして、手技がたくさんできたらいいな”、と漠然と思っていました。

神戸から 3 時間電車に揺られて、車窓から見える景色がだんだん田んぼと緑でいっぱいになり、和田山駅に着くと壮大な山と美味しい空気に囲まれて、まず心が浄化されていくのを感じました。診療所につくと、岡本秀樹先生、静子先生、黒瀬先生およびスタッフのみなさまが温かく歓迎してくださり、知らない土地での研修に対する不安は一気になりました。

外来診療では 1 か月間毎日心エコー、頸部エコー、採血、レントゲン撮影などをさせていただきました。エコーは最初、どうプローブを当てて何を描出したらいいかもわかりませんでした。先生方に丁寧にご指導いただき、毎日エコーを当てていく中で徐々に成長できたと思います。採血はあまり経験がなく、自信は全くなかったのですが、看護師のみなさまにコツを教えていただき、成功する頻度が増えました。救急対応も見学させていただき、特に印象に残っているのはダニ咬傷で、地域ならではの症例を経験できてうれしかったです。

訪問診療は初めは慣れませんでした。何度か訪問する中で、“ごはんは食べれてるの？”、“トイレ行くとときにこの段差は危ないな”と、患者一人一人の日々の暮らしが見えてくるようになりました。そして、気が付いたらいつも笑顔で迎えてくださる患者さんに会いに行くのが楽しみになっていました。

1 か月の研修で一番心を動かされたことは、先生方とスタッフの皆様が、患者とその家族の想いや希望にできるだけ寄り添えるよう、細やかな配慮、様々な工夫をされていることでした。これは、訪問診療をしていることで、患者さんの生活がわかるからこそできることだと思います。そして、そのような努力があることで患者さんの満足度が高くなり、信頼関係をしっかり築くことができていたように見えました。

今回の地域の研修で私は、最初に目標にしていた通り、大自然の中で心の余裕をもち、但馬を存分に楽しみ、ゆっくり過ごすこともできたし、皆様にたくさんご指導いただいたおかげで、手技も上達することもできました。でも、なによりも勉強になったことは、患者さんに寄り添うために必要な姿勢や考え方でした。今回感じたことや学んだことを活かし、皆様のように患者さんが一番納得し、満足のいく医療を提供できる医療者になれるよう、日々精進していきたいです。

最後になりましたが、温かく迎えてくださり、熱心にご指導いただいた先生方、スタッフの皆様、毎日おいしいごはんを遊んでくれて癒しを提供して下さった岡本家の皆様、本当にありがとうございました。また絶対に朝来に遊びに行きます！